

XUEXI ZHANG'AI ER DE JIAOYU ZHIDAO

学习障碍儿童的教育指导

编 著◎周 平 李君荣



人民军医出版社

PEOPLE'S MILITARY MEDICAL PRESS

学习障碍儿的教育指导

XUEXI ZHANGAIER DE JIAOYU ZHIDAO

周 平 李君荣 著



人 民 军 医 出 版 社

Peoples Military Medical Publisher

北 京

图书在版编目(CIP)数据

学习障碍儿的教育指导/周平,李君荣著. —北京:人民军医出版社,2003.2

ISBN 7-80157-745-0

I. 学… II. ①周… ②李… III. 弱智儿童-儿童教育-研究 IV. G764

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2002)第 092581 号

· 人民军医出版社出版

(北京市复兴路 22 号甲 3 号)

(邮政编码 100842 * 电话:68222916)

人民军医出版社激光照排中心排版

三河市印务有限公司印刷

春园装订厂装订

新华书店总店北京发行所发行

*

开本:850×1168mm 1/32·印张:8.375·字数:204 千字

2003 年 2 月第 1 版 (北京)第 1 次印刷

印数:0001~4500 定价:18.00 元

(购买本社图书,凡有缺、倒、脱页者,本社负责调换)

内 容 提 要

“学习障碍儿教育指导”是国家教育部重点课题“科学教育-开发儿童少年潜能研究”的重要课题。本书是作者长期以来从事此项研究的成果,全书共8章,分为三个部分。第一部分主要介绍了学习障碍研究的产生与发展,第二部分在对学习障碍的特性、病因及分类进行探讨的基础上,阐述了学习障碍的筛选测试与诊断方法;第三部分对学习障碍儿的早期干预和教育指导进行了研究,并列举了不同年龄阶段个别化教育指导的典型实例。

本书帮助广大教师和家长对学习障碍有一个比较全面、系统的了解,树立科学教育的理念,及早发现有学习障碍的儿童,理解他们,并给予切实的援助,以开发他们内在的潜能,使他们回归主流,回归社会。

本书既可以为关心学习障碍儿的教师、家长提供有益的帮助,也可以作为学习障碍科研人员进行科学教育和研究的参考书。

责任编辑 姚 磊 张 峰

序 言

松坂清彦

周平先生は1992年秋、国立三重大学教育学部在職の私のところへ研究者として来日しました。彼女はその前にも同大学医学部内科での研究暦がありましたが、その時は私との接触はありませんでした。

医学分野(医師)の彼女が、教育学部の心理分野の私のもとの、障害児の心理と教育について研究したいということでした。その動機について直接聴いていませんが、多分、当時の中国内の障害児の教育や福祉の現状から、まず障害児についての基礎研究が重要であるという認識を彼女が抱いたのだらうと推察しています。

実は私も40数年前の日本の障害児の研究や教育福祉の状況から少しでも役に立ちたいという動機をもってこの分野を専攻しました。

中国の障害児研究や教育福祉の歴史や現状については、十分に知りませんが彼女が障害児の研究を思い立った前後から貴国であらためて重要視され始めたのではないかと推察します。もちろん彼女の一つの論文(日本特殊教育学会誌「中国の教育制度の中での、特殊教育の制度や特殊教育教員養成の実態について」掲載)をとおしてそれ以前から中国でも徐々に

取り組まれていたことは理解していました。

そのような自国の状況から、彼女が障害児研究を思い立ったとすれば、先見の明があったと評価され、また中国の障害児教育福祉の発展の前提となる基礎研究に重要な役割を果たすことが期待されます。その期待は、3年間の日本滞在後、中国に帰国してからの活躍から、実現されていることを中国の皆さんが認めることでしょう。

日本における障害児の心理と教育に関する研究は、1945年前から一部では行われていましたが、学会を組織して取り組むようになったのは、1945年以後日本社会が徐々に復興してからです。たとえば、日本特殊教育学会 1964 年、日本発達障害学会 1979 年、日本学習障害学会は 1993 年に発足しました。これらの学会より早く活動していた日本心理学会や日本教育心理学会などの部会で、障害児の心理や教育の基礎研究が発表されていました。これらの学会会員はかなり重複しています(私は、このうち4学会に所属しています)それぞれの学会は、年次大会を開催し、また年4回(4冊)の研究誌を発行しています。

日本における障害児に対する教育の制度については、軽度の精神遅滞(IQ50程度以上)児は、1945年前から一部障害児学級(特殊学級)で教育されていました。重度重複障害児は就学免除され、家庭か施設(福祉関係)で生活していました。1979年から、重度重複障害児の義務教育(教育の公的保障)が、日本全国の独立の養護学級で実現しました(日本の全県に養護学校が建設された)養護学校(3種の養護学校—精神遅滞児、肢体不自由児、病弱児)は、小学部、中学部、高等部から構成されていますので、6~18歳まで在籍しています。盲学校教育と聾唖学校教育は、1947年から、義務制が実施されています。健常児(一般児童)の高校までの就学率は、現在 95.5%

で、もう日本では、高校(～18歳)まで義務教育ということが出来ます、障害児も法的には中学校までが義務制ですが、実態的には18歳まで教育が保障されているということが出来ます。

障害幼児は、障害児通園施設(厚生労働省管轄)での専門的療育や、保育園(厚生労働省管轄)または幼稚園(文部科学省管轄)で統合保育(一体化教育)を受けています。

近年、一般小学校、中学校で、学習障害児(LD)や多動性障害児(ADHD)の教育の問題が大きくなっています。研究面でも大きな課題です。日本の文部科学省は、10年も前から学習障害児の調査研究に着手し、教育現場に助言指導していますが、まだ公的制度として充実した方法、施策はとっていません。また、ADHD児についても、国としての課題になった段階です。

ところで、周平先生は、三重大学での研究者としての規定の滞在期間は1年ですが、2回更新して計3年間滞在し、研究に励みました。この3年間に、日本特殊教育学会や中国の学会に計数編の論文を発表しました。

その中に、本著書の基礎となる「学習障害児の心理の特性」についての基礎研究(中国の学会誌に発表)も含まれています。帰国後も、学習障害児に関する研究を続行し、その一つに江蘇省の学習障害児の実態研究があります。この論文は、日本学習障害学会の雑誌に採用されました。本書の第五章にまとめられています。

このように、振り返ると、本著書は、約10年の歳月の成果ということが出来ます

本書の内容は、目次(章構成)から予想されるように、学習障害児の発生原因や定義、心理、行動特性、精神遅滞児童、自閉症児童、ADHDとの異同、教育指導の基本的、実際的問題と事

項、学習障害の診断、評価の実際、学習障害児の教育体制など、学習障害児の教育、指導に関する基本的問題から実際問題にわたっています。

日中国交正常化 30 周年という記念すべき年に、本書の著者周平先生(そして江苏大学)と、日本の国立三重大学(現在名古屋椋山女学園大学)の私との約 10 年間の研究の交わりの成果が出版されることは、今後の中国の学習障害児の研究と教育、指導の進歩、発展に寄与するだけでなく、広く日中両国の特殊教育領域と両国のすべての子どもたちの教育の発展と、さらには両国のいろいろな面での交流、協力の推進にとって、大きな意義があると確信し、喜びとお祝いを表明いたします。

おわりに、周平先生のいっそうのご活躍と、貴国の特殊教育の充実、発展、つまりは貴国の子どもたちの幸せを心より祈念します。

三重大学名誉教授

椋山女学園大学教授

椋山女学園大学大学院人間関係学研究科長

2002 年 10 月 20 日

序言(译文)

1992年秋天,本书的作者周平作为访问学者来到我所在的日本国立三重大学教育学部进行共同研究。在此之前,她在本校医学部学习和研究。

原先从事医学领域的她,希望来到我所在的教育学部心理学研究领域从事障碍儿的心理和教育的研究。她从当时中国学习障碍儿教育的现状,认识到学习障碍基础研究的重要性,并从此开始在该领域里致力于学习障碍理论的系统学习和研究。这恰恰和我在40多年前,目睹日本障碍儿教育和福利的现状而立志专攻该研究领域并为之发挥一点作用的动机是如此地相似!关于中国障碍儿研究和教育的历史和现状我不十分熟悉,通过周平在日本特殊教育学会杂志上发表的《中国特殊教育制度和特殊教育师资培养现状》这篇论文,我了解到贵国障碍儿研究所取得的成就并日益受到重视。周平回国以后,结合自己国家的国情,继续从事学习障碍课题的研究并取得了一定成果,我热忱地期待她在中国障碍儿基础教育研究方面发挥更重要的作用。

在日本,障碍儿的心理和教育的研究是从1945年后开始的。从那以后,日本陆续成立了专题研究学会,例如,1964年成立了日本特殊教育学会,1979年成立了发育障碍学会,1993年正式成立了学习障碍学会。比这些学会更早开展活动的是日本心理学会、教育心理学会、教育学会等,发表了有关障碍儿心理、教育的基础研究论文。我参加了其中的4个学会,这些学会每年召开专题研讨会,各学会均有自己的杂志,且每年出版4期。

关于日本障碍儿教育制度,在 1945 年前,轻度的弱智儿 (IQ 50 以上) 在特殊学籍接受教育,而重度、混合型障碍儿不能就学,在家庭或专门的福利机构生活。1979 年以后,日本全国各地都建立了养护学校,开始了重度、混合型障碍儿的义务教育。养护学校有弱智儿、肢体残疾儿、病弱儿三种类型,养护学校中均设有小学部、初中部和高中部,6~18 岁的障碍儿在籍学习,障碍儿教育得到了保障。盲、聋学校教育从 1947 年开始实施了义务教育制度。从小学到初中的障碍儿义务教育是受法律保障的。目前,正常儿童从小学至高中的就学率达 95.6%,实现了从小学到高中的义务教育。

障碍幼儿在障碍儿学园接受专门的疗育和保育或在幼儿园接受一体化教育。近年来,一般小学和中学,学习障碍儿和注意力缺陷/多动性障碍 (ADHD) 儿的教育问题很多,是一个重要的研究课题。日本文部科学省从 10 年前开始了学习障碍儿的调查研究,并在教育现场给予咨询指导。但是,学习障碍儿教育还没有作为国家制度和政策规定下来。另外,关于 ADHD 的研究,已作为国家的研究课题。

周平在三重大学致力于学习障碍儿研究的 3 年多时间里,在日本特殊教育学会和中国学术刊物上发表了数篇研究论文。回国以后,仍继续进行学习障碍的研究。其中一篇关于《中国江苏省学习障碍儿实态调查研究》的论文在日本学习障碍学会杂志 LD 研究上发表(详见本书第五章)。

本书从学习障碍的病因、定义、心理、行为特性,与弱智儿、自闭症、ADHD 儿的异同、学习障碍儿的诊断、评价和学习障碍儿的教育体制,到开展教育指导的内容和方法等,都结合中国国情进行了深入细致的研究。

这本著作是江苏大学周平等研究人员和三重大学、名古屋相山女学园大学研究人员 10 年岁月共同研究的成果。适逢日中邦交正常化 30 周年之际,本书应运而生。我坚信,这不仅对

今后贵国学习障碍的深入研究起促进作用,而且对进一步推进日中两国特殊教育领域和两国所有儿童教育的发展以及两国诸多领域的交流、合作具有重要意义。

最后预祝作者在学习障碍研究领域取得更多成果,并衷心祝愿贵国特殊教育事业取得更大发展和所有孩子幸福!

三重大学名誉教授
相山女学园大学教授
相山女学园大学研究生院公共关系学研究科長
松坂清俊
2002年10月20日

前 言

1986年,我受共青团中央派遣,首次赴日本三重大学医学部学习。在日本留学期间,我耳闻目睹了日本残疾人事业的发展和特殊教育的现状,从方便盲人行走的点字路面,到十字路口绿色信号时的鸣叫声;从方便残疾人轮椅通过的超市门前的斜坡路面,到公厕的特殊设施;从学习障碍儿的随班就读,到分类个别化教育指导,都给了我强烈的震撼和深刻的印象。从那时起,我就萌发了为祖国特殊教育事业的发展尽微薄之力的愿望。1992年,我作为访问学者再次东渡日本,在日本三重大学教育学部特殊教育研究室开始涉足特殊教育研究领域,从事有关学习障碍的研究。在日本著名特殊教育学、心理学专家松坂清俊教授的悉心指导下,我对学习障碍的病因、病理,心理、行为特性,筛选测试、诊断和教育指导的基础理论与方法进行了系统的学习和研究。1995年底,我决定回国,并立志回国以后结合我国的国情将学习障碍的研究继续下去。我的想法得到了热衷于中日友好事业发展的松坂清俊教授的热情支持。1997年,我承担了江苏省教育厅、江苏省卫生厅关于《学习障碍筛选测试PRS的标准化研究》课题,并成立了江苏省学习障碍研究课题组。为解决我国筛选学习障碍的工具问题,本课题组借鉴了日本版PRS的成功经验,在江苏省12个省辖市测试普通学校的5~15岁6676名中、小学生和幼儿园儿童,筛选可疑学习障碍儿,对PRS进行了标准化研究,制作了适合我国国情的PRS量表和操作指南。2000年,该研究成果获江苏省政府科学技术进

步三等奖。在此研究的基础上,去年以来,本课题组又承担了国家教育部重点课题“科学教育——开发儿童少年潜能”研究课题的子课题“学习障碍儿童教育指导的研究”,在江苏省有关中、小学、幼儿园实验学校,对筛选出来的可疑学习障碍儿童进一步开展了分类个别化教育指导,目前已取得阶段性成效,我们将继续研究,不断总结,以期在理论和实践中取得实质性的进展。

10年来,我和李君荣等合作者在研究过程中,与学习障碍儿童以及他们的父母和老师有了更多的交流,对学习障碍的认识逐步加深,深切体会到学习障碍儿童的痛苦和困难,非常能理解学习障碍儿童父母内心的焦躁和不安,越发希望能给予他们更多的援助,献出自己的一份爱!作者倾10年心血写了本书,目的是帮助广大中小学、幼儿园教师和家长对学习障碍有一个比较全面、系统的了解,树立科学教育的理念,及早发现有学习障碍的儿童,理解他们,并给予切实的援助,以开发他们内在的潜能。

全书共八章,分为三个部分。第一部分主要介绍了学习障碍研究的产生与发展、学习障碍的定义以及我国学习障碍的研究动态(第一章);第二部分在对学习障碍的特性、病因及分类进行探讨的基础上,阐述了学习障碍的筛选测试与诊断方法,并详细介绍了PRS量表和操作指南以及PRS江苏省的标准化研究和中日比较研究的情况和成果(第二至五章);第三部分对学习障碍儿童的早期干预和教育指导进行了研究,并列举了江苏省有关中、小学、幼儿园实验学校不同年龄阶段个别化教育指导的典型实例(第六至八章)。

本书的出版得到了国家教育部重点课题“科学教育——开发儿童少年潜能研究”课题组周德藩、张光鉴、袁金华先生,学习障碍研究课题组徐文怀、刘晓远、魏静、丁继良、马安民、陶定新、储静、杨彩莲、陈杰俊等先生的大力支持;人民军医出版社齐学进、姚磊等同志为本书的出版也做了大量的工作。镇江市东吴幼儿园、镇江市大港中心小学、淮阴市承德路小学、大丰市草堰中学

等实验学校的领导、现场指导老师以及相关人士在对学习障碍儿进行个别化教育指导过程中付出了真挚的爱心和辛勤的劳动,令人敬佩和感动!日本三重大学教育学部特殊教育学、心理学专家松坂清俊教授特为本书作序,并在本书的写作过程中,给予了热情的鼓励和精心的指导。在此,对所有给予本书关心和支持的各位朋友以及被引用文献的作者致以诚挚的谢意!

限于时间和水平,本书不当之处在所难免,恳请读者批评和指正。并热切地企盼着读者一起来关心、援助学习障碍儿童,使他们作为社会的一员,平等地参与各项活动,回归主流、回归社会,共享人类之生活!

周 平

2002年10月20日

目 录

第一章 绪论	(1)
第一节 学习障碍研究的产生与发展.....	(1)
第二节 学习障碍的定义.....	(7)
第三节 我国学习障碍研究的动态	(11)
第二章 学习障碍的特性	(16)
第一节 一般特性	(16)
第二节 不同年龄阶段的特性	(20)
第三节 不同类型发育障碍身心特性的比较	(21)
第三章 学习障碍的病因及分类	(28)
第一节 学习障碍的病因	(28)
第二节 学习障碍的分类	(33)
第三节 学习障碍与其他类型障碍的比较	(37)
第四节 与学习障碍关系密切的疾患	(41)
第四章 学习障碍的筛选测试与诊断	(44)
第一节 筛选测试的方法	(44)
第二节 神经心理学的检查方法	(48)
第三节 医学检查	(57)
第五章 学习障碍的筛检测试量表与操作指南	(64)
第一节 PRS 量表	(64)
第二节 PRS 各项的构成要素	(76)
第三节 江苏省的 PRS 标准化研究	(89)
第四节 江苏省 12 市可疑 LD 筛查结果.....	(99)

一、学习障碍儿童的教育指导

第六章	学习障碍儿的早期干预	(103)
第一节	给予学习障碍儿父母理解和援助	(103)
第二节	婴幼儿期的早期干预	(107)
第三节	学校、家庭和社区的共同干预	(110)
第四节	早期干预的注意事项	(119)
第七章	学习障碍儿的教育指导	(124)
第一节	教育指导的基本原则	(124)
第二节	教育指导的具体实施	(129)
第三节	教育指导的注意事项	(182)
第八章	学习障碍儿的个别化教育指导	(189)
第一节	对幼儿期学习障碍儿的个别化教育指导	(190)
第二节	对小学阶段学习障碍儿的个别化教育指导	(222)
第三节	对初中阶段学习障碍儿的个别化教育指导	(236)
	参考文献	(249)

第一章 绪 论

学习障碍(learning disabilities, LD)研究是特殊教育领域里的一个重要课题,伴随着学习障碍研究的产生与发展,人们对学习障碍的认识经历了一个从低级到高级、从不成熟到逐步成熟的漫长过程。人类进入 21 世纪后,经济发展突飞猛进,科学技术日新月异,学习障碍研究无论在理论上,还是在实践中,都将迎来一个新的发展阶段。

第一节 学习障碍研究的产生与发展

19 世纪初,世界上开始了对学习障碍的研究,至今已有两百多年的历史。在大量的临床实践中,人们不断研究,不断总结,不断创新,逐步积累了经验,丰富了关于学习障碍的病因、测试、诊断及其教育指导的理论与实践。

一、学习障碍研究产生与发展的历程

学习障碍研究产生与发展的历程大致可以划分为以下 4 个阶段。

1. 初级阶段 在学习障碍研究的初级阶段,外科医生对脑损伤病人的学习能力及表现的研究,为学习障碍研究的理论奠定了基础。这一阶段主要的研究报告大多来自于医学临床病例,多数研究者比较重视病因的讨论,对学习障碍的初期研究集中在脑损伤病例以及对语言障碍和阅读障碍的研究,很少涉及